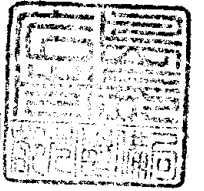


広整市第 66号  
平成17年10月18日

広島市監査委員 様

広島市長 秋葉忠利  
(都市整備局市街地再開発課)



平成15年度包括外部監査結果報告に添えて提出された意見への  
対応結果について (報告)

このことについて、別紙のとおり対応しましたので報告します。



意見の要旨

◇ 広島駅南口開発株式会社の存続について

市中金融機関からの運転資金の借入がないと平成16年5月にも資金ショートを起こす状態であり、また広島市の公的支援がない限り、運転資金借入が難しい状況である。予想される資金ショートへの対応の意思決定を早急に実施する必要がある。

広島市の玄関口を整備する事業であり、かつ、都市計画事業として実施される点で公共性が高いということで第三セクターで実施した以上、広島市は金融機関の支援が得られるようバックアップする必要がある。支援策の例としては、以下のものが考えられる。

ア 広島市が支払利息を負担する。

イ 広島市が低利子融資制度を新設することにより長期借入の返済に充てる。

対応結果

○ 広島駅南口開発(株)の資金収支の健全化について、同社と本市、金融機関、核テナント等の関係者間で協議を進め、以下のとおり、平成17年8月に関係者がそれぞれ支援を行った。

ア 本市は、同社に対し、エールエールA館に係る市有財産(土地、建物)を、現物出資したほか、金融機関からの借入金の一部繰上償還(71億円)のため、その資金の一部(37億円)を貸し付けた。

イ 金融機関は、上記の繰上償還を受け入れるとともに、残りの貸付金に係る貸付期間の15年間延長等を行った。

ウ 核テナントは、上記の繰上償還のための資金として、敷金を追加拠出(34億円)した。

エ 権利者(床所有者)は、同社に賃貸している床に係る受取り賃料の、平成17年8月からの引き下げを受け入れた。

○ これらの一連の支援と、広島駅南口開発(株)による人件費、建物管理費等の経費削減などにより、今後見込まれる償却前利益と金融機関等への返済額とのバランスがとれ、資金収支が健全化した。